

## 特別講演「実験空気力学のフロンティア－北部支部の可能性」

Frontiers of Experimental Aerodynamics - Opportunities for the JSASS Northern Branch

【日時】 2021年3月19日（金） 9:30~10:10

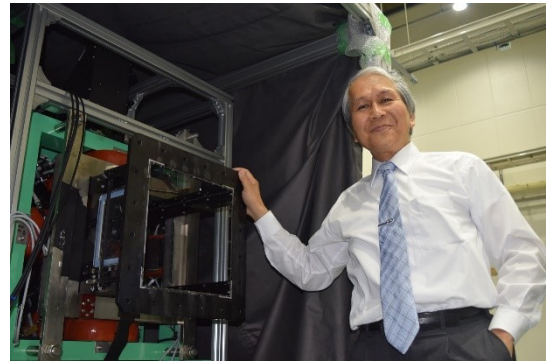
【会場】 オンラインにて実施

【講師】 浅井 圭介（あさい けいすけ）

【現職】 東北大学大学院 工学研究科

航空宇宙工学専攻 航空システム講座 教授

【専門】 実験空気力学，飛行力学，航空機設計学



### 【講演要旨】

学術分野における日本の航空の歴史は1916年（大正5年）に東京帝国大学工科大学内に航空学調査委員会が設置されたことに始まる。これを発議したのは山川健次郎総長（福島出身），そしてこの委員会の委員長を務めたのは物理学教授の田中館愛橘博士（岩手出身）だった。このようにその創成期から日本の航空宇宙は北部地区と深い縁で結ばれている。現在においても，北海道・東北の一道六県はそれぞれの地域において，航空や宇宙に係わる文化的背景と研究開発や産業振興を支える潜在能力を持っている。講演者は大学卒業後，航空宇宙技術研究所（NAL，現在のJAXA航空技術部門）で風洞技術者として勤務して以来，一貫して空気力学研究のための実験技術の研究開発に従事してきた。風洞屋の眼から見ると北部地区は極めて魅力的な環境であり，千歳試験場三音速風洞やJAXA角田のHIESTなどの極限的な熱流体実験が行える設備や，民間ロケットの打ち上げからドローンや空飛ぶ自動車の飛行テストが行える施設など，他の地域にはない研究インフラを備えている。本講演では，講演者のこれまでの研究経験と国際交流の中から見えてきた「実験空気力学のフロンティア」について論じるとともに，日本の航空宇宙の将来を支える研究開発基盤としての「北部支部の可能性」について述べる。

### 【略歴】

1980年3月 京都大学工学部航空工学科卒業

1980年4月 科学技術庁 航空宇宙技術研究所 入所（空気力学第2部 遷音速風洞計測研究室）

1988年3月 NASA Langley研究センター客員研究員（長期在外研究員，1年間）

1995年12月 東京大学大学院工学系研究科 博士（工学）

1999～2003年 科学技術振興調整費 知的基盤整備事業「機能性分子による熱流体センシング技術の研究開発（MOSAICプロジェクト）」研究代表

2003年10月 東北大学大学院 工学研究科 航空宇宙工学専攻 教授，現在に至る。

【学会活動】日本航空宇宙学会 北部支部 支部長（2009年度），フェロー会員（2012年～），空気力学部門委員長（2015-16年度）他。